

暴かれた真実。業界黙示録

「暴かれた真実・業界黙示録」は、実際に起こったパチンコ・スロット業界の事件・詐欺・摘発などをもとに構成された実録風ドキュメント連載である。登場人物や店名は仮名化されているが、事件の内容は極力事実に基づき構成されている。閉ざされたホールの奥で何が起こっていたのか――いま、その真実が暴かれる。

File.04 消えたグランドオープン——夢を売り、姿を消した詐欺師たち

“近日グランドオープン”――。

その貼り紙が現れたのは、梅雨明け直後の蒸し暑い夕方だった。場所は関西圏のとある歓楽街。駅から徒歩圏内、老舗ホールが集まるエリアの外れにある雑居ビルの1階がその舞台だった。

かつてホルモン屋だったというその物件は、白い養生パネルで外壁ごと覆われ、そこに大きく「PIONEER」の店。近日グランドオープン」と印刷された看板が貼られていた。字体は派手な金色、まるで大手チェーンのリニューアルのような迫力だった。

パチンコファンの間では、突如現れた新店情報にSNSがざわついた。久々の新規出店か? 「Zグループの新ブランドじゃないか」など、出所不明の憶測が飛び交い、まとめブログまで立ち上がる始末

だった。

数日後、現地には“スタッフ”とおぼしき男女が現れ、仮設のテントを設置。会員募集が始まった。登録特典は豪華で、「初日優先入場」「開店記念景品進呈」「来店ポイント10倍」の三本立て。登録はスマホの専用ページから行い、その場で紙製の仮会員カードが手渡された。

カードには「グランドオープン日、7月下旬予定」とだけ書かれ、裏面には「当日は本人確認が必要です」の文字。まるで大規模開店時の入場整理券のような演出だった。

ツイッターでは毎日のように「カウントダウンあと〇日!」と煽る投稿があり、さらに魅力的な店内のイメージCGまでが流されていた。架空のはずなのに、誰もがそこにホー

ルができる信じ始めていた。私が最初にこの件を知ったのは、

週刊誌の編集部で、別件の取材をしていたときだった。

「先輩、なんか変なグランドオープンがあるって、今、ネットでバズってますよ」

若手記者の興奮した声がぎつかけだった。彼の言葉に促され、ネットに上がっていた画像を確認すると、そこには“グループ企業”と称される会社の名前が記されていたが、よく見るとそれは架空の企業名であり、所在地も実在しないバーチャルオフィスであることが判明した。しかし、それにもかかわらず、現地にはすでに長蛇の列ができていたという。

ある平日の夕方、私は実際にその場所を訪れることにした。そこには、数人のファンが熱心に情報交換をしている光景があった。彼らの表

情には、グランドオープンへの並々ならぬ期待と興奮が満ち溢れていた。

「初日だけは設定入れるって噂や」「前日から並ぶつもりや」「LINEでチップ買ったら優先抽選もらえるらしいで」

彼らが見せてくれたのは、公式アカウントから送られたという案内画像だった。

《事前特典チップ・101万円》
《限定会員のみ販売》
《VIPルーム入場券付与》

思わず耳を疑った。景品交換とは直接関係ないといっても、これは危険な香りがする。だが、目を輝かせる彼らに、その言葉は届かなかった。

「こんだけ事前に煽ってて、ガセはないやろ。金取って開けへんとか、そんなことせえへんて」

40代男性のその言葉が、あとで胸に重くのしかかることになる。

オープン予定日を5日後に控えたある朝、現地は一変した。

パネルは撤去され、仮設テントも消えていた。公式アカウントは削除され、連絡用電話番号も不通。店頭

に貼られていたすべての告知は、跡形もなく消えていた。現地に駆けつけた登録者たちは、立ち尽くした。

「え……ウソやろ?」「これ、なんかのサプライズ?」

落胆と困惑の声が周囲から漏れたあと、皆は静かにスマートフォンを取り出し、目の前の光景を撮影し、SNSに投稿し、そのまま沈黙した。私が再び現地を訪れたとき、建物の入り口には「テナント募集中」と書かれた不動産会社の真新しいステッカーが貼られていた。内部は旧ホルモン焼き肉店のまま、天井には焼け焦げた換気ダクトが生々しく残っていた。とても、パチンコホールとして利用できるような本格的な工事は一切行われていなかった。



その後の調査で、運営会社とされていた「株式会社Gホールディングス」は実在せず、記載されていた所在地はレンタルスペース。問い合わせメールはバウンスエラーで返ってきた。掲示板やSNSでは被害報告が相次いだ。

「1万円払ったのに連絡こない」「VIP権買ったのに、音沙汰なし」「バイト代、もらってない」「物件オーナーがキレてるらしい」

私はSNSを通じて、1人の元アルバイト男性に連絡を取ること

に成功した。「日払いでティッシュ配るだけの簡単なバイトって言われて応募したんですよ。でも最初の2日は出たけど、3日目以降は“会社都合で中止”ってLINEが来て、それっきりです。ギャラも2日分しか振り込まれてません」

彼は、求人サイトで“新規開店PRスタッフ募集・未経験可・日給1万円”という広告を見て応募したという。面接は喫茶店、担当者は偽名を使用していたとのことだった。また、別の被害者男性はこう語った。「パチンコ系VIP優遇システム”って名目で、振込先だけがメールで送られてきたんですよ。ちゃんと“領収書発行可”とか書いてあったんで、信用してしまつて……。でも今思えば、電話番号も一切記載されてなくて、完全に怪しかった」

その後、私は地域の不動産会社を訪ね、件の物件について聞いた。

「あそこ? いやあ、貸したの3週間くらいだけです。賃料も半月分しか払われてなくて、連絡取れないんです。まさかパチンコ店を名乗って詐欺やってたとは……正直、うちも被害者ですよ」

関係各所への聞き取りから浮かび上がったのは、「詐欺グループによる移動型グランドオープン商法」という構図だった。

物件を借り、仮設の看板とSNSで期待を煽り、事前に個人情報と金銭を集め、一定期間が過ぎたら“跡形もなく消える”。その繰り返し。法的に難しいのは、風営法の許可

を取得していないため、営業していない。風営法違反には当たらず、被害も「事前登録」や「小口課金」であり、詐欺罪の立件も困難という点だった。

その後、東海地方や九州地方でも同様の“ゴーストグランドオープン”案件が複数確認されており、いずれも法人登記されていない架空の企業による仮営業であったことが判明した。

パチンコホールのグランドオープン”という言葉は、業界にとつて、そしてファンにとつても、特別な意味を持つ。それは、新しい夢を見させ、大きな期待を集め、輝かしい未来を描かせる言葉なのだ。

そこに詐欺師たちはつけ込んだ。彼らは実体のない幻想だけを提示し、それによって人々から金と情報を奪い取って、闇へと消えていった。

だが次に、あなたの街角にその言葉が貼り出されたとき――それが、真実ではないと、誰が一体言い切れるだろうか。近日、グランドオープン――その一枚の紙が、また誰かの夢と希望を食い物にしようとしているのかもしれないのだ。